

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業 みらい			
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数)	9名
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 9月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月17日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	年齢の幅を広げ、早期の受け入れが可能な体制づくりをしている。	低年齢児クラス(主に2歳児)を設置し子育てのむずかしさや不安に直面しているご家族を支えていけるよう様々な提案ができるよう努めている。	わが子とどのように向き合えばよいかわからない家族に子育ての希望、たのしさを見つけていけるようしっかりと寄り添い支援していく。
2	体の発達に不安があるお子さんの受け入れが可能な体制づくりをしている。	理学療法士を配置できるグループを設定し、体の使い方や積み重ねていくとよいあそびや動きの提案をしている。	理学療法士の配置を継続していき、理学療法士が立案するプログラムの展開など家庭につなげて実践できることを増やしていきたい。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ワンフロアの限られたスペースで運営しているため、活動内容や参加人数によりせまくなることもある。		活動ごとに(朝の支度、個別課題、あつまり、主活動など)場所の設定し子どもたちの動きがわかりやすくスムーズになるよう工夫している。
2	午前中は児童発達支援事業、午後からは送迎を実施する放課後等デイサービスの事業を行っているため、職員個々で動きが異なるので共有できる時間の確保がむずかしい。		午前中の振り返りは時間を決め休憩時間が確保できるようにし、記録等の事務処理も時間の目途の中で終了し職員会議や日々の準備時間がとれるよう意識して行っている。時間の確保は職員ひとり一人の意識と決められた時間内で事務処理を終了させる力がとても大切であると考えているので個々のスキルの上昇に努めていきたい。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援事業 みらい

公表日 R8年 1月 15日

利用児童数 12

回収数 9

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6	2			①運動あそびの際は狭さを感じる	参加人数や活動の種目内容により狭いことを感じやすくなるので、体を動かしている達成感を持ち続けながらも安全に参加できる活動内容を今後も設定していく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	8					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9				仕切りがたくさんあり区切られていて環境が整っている	どこで何をやるのがわかりやすいように、そのときに必要ないものは見えないような段ボール製のパーティションを使用している。限られた空間でわかりやすく過ごすために今後も使用していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9					
適切な 支援 の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	8	1				
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8	1				
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	9					
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	2	2	1	4		
保護	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8			1		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	9					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9				自由あそびの時間にたくさん話を聞いてくださり助言もしていただいています	後半の自由あそびの時間に活動の振り返りや家族からの相談、質問に応じている。前回から引き続き確認が必要なことも見落とさないよう努めている。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	8					

者 へ の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	1	2	1	保護者同士の交流、きょうだい同士の交流や支援はないと感じている。療育に行けば同じような境遇の方と出会え、わかり合えることがあると聞いていたが今のところない。そういう意味では孤独。	現在在籍1名のため、グループ内での保護者同士の交流の経験ができないが、今後は利用児の数も増えていく見込みなので後期に期待してほしい。きょうだい向けのイベント企画や交流の機会を設けることは行ってないが、保護者からの話の中できょうだいとの関係、きょうだいへの対応などについて一緒に考えたい。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8			1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8			1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	1		3	HP、SNS等をあまり見ないため	活動予定や連絡事項は紙ベースで伝えることが多い。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6			3	十分に留意されていると感じるタイミングが少ないため、判断がむずかしい	保護者との会話はもちろんのこと、職員間でのやりとりや配布書類、確認書類の管理などには十分気をつけている。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7	1		1	訓練はしたことがないので	地震、火災についてはグループごとに定期的な避難訓練日を設定している。地震のときに室内で一時的に避難する場所の確認や、避難経路の確認をしている。発生を想定した訓練ということが伝わっていなかったようなので、今後は訓練前にわかりやすく伝え、意識してのぞめるよう努めていく。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6	1		2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7			2	けがしたことがない	契約書の中でけがや病状の悪化など事故に相当することが起こったときの対応について説明している。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7	1		1	・これまでではひとりだったので楽しそうだったが、最近他の利用児が増えて少し緊張している様子 ・先生方の丁寧な支援、関わりをしてくださるので楽しく通えています	一人ひとりにとってわかりやすい環境を設定し、安心して過ごすことができる場所であることを守っていきけるよう努めていく。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	6	1		2	・行きたくないというリアクションはないがドアの前に行くところをためらう ・毎回通所の日を楽しみにしています	玄関まで来ることができればくつBOXを提示してくつを脱ぐことを促したり、本日の活動を見てわかるよう伝えて意欲的に入室できるようにしている。圧迫感があるので大勢の職員で出迎えないようにすることも気をつけている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	9				・大変満足しています	今後も家族からの話、状況に寄り添いながら、自分たちにできることを最大限発揮できるよう日々学ぶことも忘れず支援にあたっていきたいと思う。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援事業 みらい				公表日	R8年 1月 15日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	1	①回6名全員が利用すると手狭さを感じる。 ・利用児数が多いと保護者の人数も多くなり、運動プログラムのときは保護者が隅の方で参観することもある。 ・保護者のスペースや器具庫が広くなるとよい。	活動内容や流れに合わせてパーティションを設置、移動させ職員間の連携で成り立っている。現状より課題点が増えないよう工夫に努めていく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2	曜日により利用児の数と見合わないと感じることがある。	職員の人数は基準内で配置されているので、流れに沿った職員ひとりひとりの動き方を見直し、利用児、保護者が安心して参加できる場になるよう今後も努めていく。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		玩具の手入れ、収納、教材の改善を行っている。	入室後の手洗い、手指消毒を継続し、使用した玩具を療育後に消毒することも継続している。活動時に必要のないものは目に入らないよう棚に収め、カーテンで覆っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5	1	パーティションで区切る工夫をしている。	個別の課題を行うときはパーティションでブースを作り、職員と1対1で取り組んでいる。利用児の状況により個別の場が必要な場合もパーティションの使用でいつでも対応できるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		・毎日の振り返り、職員会議、会議録は回覧して全員が参画している。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6					
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6					

適切な支援の提供	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		工夫している。	季節や利用児の特性、状況に応じて同じ活動でも種目を変えたり使用するものを変えたり、利用児本人が自分でできたことを実感できる内容になることを大切に取り組んでいる。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3	年長児の利用がない。	事業所の在り方として今までは年少、年中児を同法人の他事業所に移行していたため、年長まで在籍するケースがいなかったが、今後は在籍することも想定し移行先との連携をしっかりと行うことに努めていく。
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6			
32		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		
33		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6				

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	1	4		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	2		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	・事業所の行事はない。	事業所主催の行事はないが、法人で主催する「松風園まつり」の案内はしている。職員間でもこの行事が事業所にとっても地域の方々との交流の場になっていることを改めて周知していく。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	食事場がない。	食事を提供する場面はないが、利用前のアンケートに確認する項目がある。水分摂取の時間は毎回あるのでそのときにも必要な確認は行っていることと、何らかの形で食する場面ができたときはもちろんしっかり対応をしていく。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6				
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6				

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス みらい			
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 9月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月17日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療育支援、生活支援、機能訓練の3つのサービスが提供できる体制づくりをしている。	療育支援では年間計画の中で運動・音楽・調理・外出の活動を主に行っている。生活支援は看護師を配置し医療的ケアの対応や送迎車同乗により気管切開をしているお子さんの送迎も行っている。機能訓練は理学療法士を配置し、個々の必要な頻度に応じて行っている。	3つのサービスを継続していき、充実した放課後を過ごすことができるよう努めていく。
2	肢体不自由児の受け入れに特化し、医療的ケアが必要なお子さんも積極的に受け入れている。	生活支援ではひとり一人の体の状態を把握し無理なく安心して過ごすことを大切にしている。食べることも自分でできることのひとつとして大切に、丁寧に取り組んでいる。	できることはさらに意欲的にできるように、むずかしくなってきたことは今の状態が少しでも長く続くことを目指しながら「今日もたのしかった」と感じる場であり続けていく。
3			

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	限られたスペースでの運営のため、年々体と車椅子が大きくなっていく子どもたちにとってせまく感じることは多々ある。		曜日ごとに子どもたちが過ごしやすいよう環境の設定を変え、動線がとれる工夫をしている。順番に散歩に出かけたり音楽を聴いたりそれぞれの子どもたちがストレスなく過ごす流れをたくさん考えていく必要がある。
2	時間の使い方については児童発達支援事業と同様。		午前中の振り返りは時間を決め休憩時間が確保できるようにし、記録等の事務処理も時間の目途の中で終了し職員会議や日々の準備時間がとれるよう意識して行っている。時間の確保は職員ひとり一人の意識と決められた時間内で事務処理を終了させる力がとても大切であると考えているので個々のスキルの上昇に努めていきたい。
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	放課後等デイサービス みらい
------	----------------

公表日 R8年 1月 15日

利用児童数 21

回収数 10

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7	3			体を動かしたい子だと少しせまいと思います。 ・一見狭い気はするが、過ごし方の工夫で気にならない活動をして下さっている。	年々利用児の体とともに車椅子やバギーも大きくなっています。曜日ごとに過ごしやすいフォーメーションを考えたり、順番に戸外に出る時間を作るなど限られたスペースを活用しています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	10					
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10					
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10				子どもの伸びてほしいところ、長所に焦点をあていただき、力を引き出して下さり成長を感じられ大変感謝しています。	学校からの引継ぎ事項や家庭からの連絡事項をもとに利用児の状態を把握し必要な対応ができるよう努めています。利用児への声かけを丁寧に行い、表情を受け止めながら関わっていくことも大切にしています。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	10					
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10					
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	10					
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	2				
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5	2		3	公園やさんぽのときとか？かなと。多くはないと思うがその程度でよいと思っている。	
保護	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10					
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	1			なかなか参加できてなくて申し訳ないです。	
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	10					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10				帰宅後の子どもたちの様子や表情などからよい時間を過ごさせていただけただといつも安心感を得ています。	

者 へ の 説 明 等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	2		2		
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	1		1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	5	3		2		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10					
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	1		2		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	10					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9			1		
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10					
	29	事業所の支援に満足していますか。	10					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス みらい			R8年 1月 15日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	2	3	医療的ケア児が横になって過ごすスペース、運動活動をするスペース、車椅子を置くスペースが必要。もう少し広さがあるとよい。	最大人数6名が過ごしている。医療的ケア児は電源のそば、人の声に過敏な利用児は角の落ち着けるスペース、体を動かしたい利用児には一定の広さを保障していくなど必要な配慮をしながら曜日や利用児の状況により環境設定の工夫を行っている。年々車椅子で来所する利用児が増えつつあるので置くスペースも曜日により確認している。現状と向き合いながら利用児の安心、安全を守り、関わりの中での満足感を得られるよう今後もより良い環境づくりを追求し続けていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	2	医療的ケア児の人数により看護師が1～2名配置されているので連携して活動ができています。	医療的ケア児本人と家族が安心して過ごす場所であるため必要な看護師の配置を今後も行っていくことと、医療的ケアが必要でない利用児にとっても心地よい場であることが継続できるよう努めていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	パーティションをうまく活用し確保している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5			

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	送迎の関係上全員がそろった状態での打ち合わせはむずかしい。	送迎の関係上全員がそろった状態での打ち合わせはむずかしいが個別支援計画に沿った支援は共有されているので、各利用児が継続していくこと、大切にしている経験を共有した上での活動内容を行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	送迎の関係上全員がそろった状態での振り返りはむずかしい。	必要事項は翌日に周知している。送迎時に受けた内容は送迎時ファイルに記載し口頭でも伝え周知している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外務研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5				

	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	3	1		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5			
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4	1		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	5			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5			
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	1	4		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	3	2		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5			
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	1		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5			